

外断熱懇話会、ドイツWDVS(湿式外断熱)協会を迎えたセミナーを開催
高まる環境問題への関心を背景に、名古屋で100名、東京で250名の方が参加

外断熱工法の普及促進を目的に関連31社で構成される業界団体、外断熱懇話会(会長:夏目康広 康和地所株式会社代表取締役社長)と特定非営利活動法人外断熱推進会議(竹川忠芳理事長)は、5月21日(水)に名古屋、5月23日(金)に東京で昨年50周年を迎えたドイツ湿式外断熱(WDVS)協会の専務理事 Dr.Wolfgang Setzler(ヴォルフガング セッツラー)氏を迎え「国際講演 ドイツWDVS協会を迎えて～外断熱による地球温暖化防止と長期耐用住宅～」を開催しました。

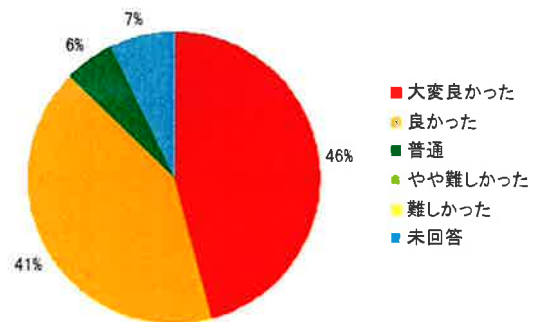
この講演会は来たる洞爺湖サミットでも議題として取り上げられる地球温暖化防止への取り組みに対し、環境先進国ドイツにおける外断熱工法の効果と技術の最新事例を紹介することを目的に開催されたもので、当日は一般の方を含む多数の方が参加、環境問題、CO₂排出削減に対する意識の高まりを背景に熱気に溢れた講演会となりました。

セッツラー氏は「ドイツでは1973年の省エネルギー法による建築物の『断熱に関する通達』が契機となり施工面積が飛躍的に増加、これによりCO₂排出量が大幅に削減され地球環境に大きく貢献している」と説明、長い歴史と改修を含む外断熱建築が7億6000万㎡と言う高い普及率を誇るドイツならではの貴重な講演を実施、来場者アンケートによると85%以上の方が「良かった・大変良かった」と評価される充実の内容でした。



【Dr.Wolfgang Setzler による講演風景】

①「地球環境への大いなる貢献...WDVS50年の軌跡」
 をお聞きになって如何でしたか？



【東京会場アンケート結果より】

他の講演者としてお茶の水女子大学 田中 辰明名誉教授が「日本における湿式外断熱」と題して日本の外断熱工法の歴史を中心に講演、続いてタカネヒューマンサポート専務取締役・介護サービス施設「桜ハウス玉川」事業所長 田代 育夫氏による「暖房設備のいない介護サービス施設」では外断熱による無暖房介護施設が快適かつ冷暖房コストの削減による経済的メリットが高いことを紹介、最後にショック社マルセル ベゴック氏による「ヒートブリッジ対策の重要性」と題した新しいヒートブリッジ処理方法の紹介が行われ、幅広い方々にご満足をいただける内容となりました。

外断熱懇話会では今後も一般の方や業界関係者を対象に最新事例や海外事例を紹介するセミナー等を通して、外断熱工法の認知拡大・普及促進活動を行っていかうと考えております。

お問い合わせ先

外断熱懇話会 事務局 担当 松井、二瀬

☎フリーダイヤル 0120-455-662 / FAX 03-5216-1503 E-mail : mail@sotodan.info

〒102-0083 千代田区麹町4丁目8番地 麹町クリスタルシティ東館13階(康和地所株式会社内)